

## 「2015年韓国・延世大学校スプリングスクールプログラム参加報告書」

京都大学工学部3年 西山雄大

- ① 私の韓国語学習は大学入学以前に遡る。テレビで韓国ドラマの音声を耳にし、文法書片手にネットの海を彷徨ったのがその始まりだった。大学では初級クラスを一年間履修し、ネットでは韓国の友人との交流が続いている。しかし韓国語を話すという機会はこれまでになかった。今回のプログラム参加はそのための動機付けになると考えたのである。
- 韓国に滞在している間、授業中も放課後も、常に全身に韓国語を浴びた。そのすべてを理解できたわけではないが、自らに向けられた言葉をなんとか理解し、それに応えることができるようになった。授業に限らず街中でも、投げかけられた言葉には、同じ言葉をもって応えなければならない。この時に頭を使ってしまっただけでは、応える言葉が遅れてしまう。母語で応える時のように、自然に返されるものでなければならない。この感覚は実際にその街に滞在しないと身に付けられないものであった。
- それにもかかわらず、自身の語学能力が飛躍的に向上したと私は思わない。むしろ当地の人々との、時にもどかしいやりとりを通じて、言葉を介するコミュニケーションに万全を期することはできないとの認識を新たにした。すなわち言葉にどれだけ習熟しようとも、思いや気持ちを完全に人と分かち合うには至らない。そしてそのことは母語でも同じことに違いないのである。
- ② 市内観光、名物料理、学生交流等々、ソウルでは私にとって多くの新奇な経験ができた。もっともそれらは日本でも、また一人でも可能なものかもしれないが、海外でのスクールプログラムという場はそのための絶好の機会を私に与えてくれた。
- 延世大の学生との交流はとても楽しいものだった。専攻も様々な学生たちと、食事の後はバーで飲んだりしながら、日韓の文化や学生生活について話に華を咲かせた。ソウルについてよく知る彼らは、我々にとってこの上もないガイドであり、美味しい料理店や楽しめる見どころに連れて行ってくれたりした。
- ソウルは治安が良いので、地下鉄やバスなどを利用して、一人でもどこへでも行くことができた。観光客で賑わうミョンドン、民衆の活気溢れるトンデムン、現代アートが息づくテハンノ、お洒落な店が並ぶカンナム等々、ソウル市内には多くの見所がある。ソウルは治安が良いので、困ったときには周囲の人が助けてくれた。自分が日本人であることを察して、日本語で話してくれる者もいた。
- なかでも私が好きなのは学生街である。大学のキャンパスのあるシンチョンの、地下鉄の駅から延世大の正門まで伸びる道は、夕刻になると大学帰りの学生で賑わい、深夜までネオンが煌々と輝く。またホンデ周辺は、漫画やアニメといった日本のポップカルチャーを取り扱った店の多い地域だった。ネットで交流のあったソウル在住の友人とそこで韓国語で会話しながらそこで楽しい時間を過ごすことが出来たのはこの上もない喜びであった。
- ③ プログラム内容は、韓国語学習が充実している一方で、行動の自由度も高かった。
- 延世大学校は外国人留学生への韓国語教育のために特別なコースを用意している。授業は専用の教科書を用いて、他国からの留学生と席を並べて行われた。私の受講した2級では授業がすべて韓国語を用いて行われており、最初は当惑したもの、次第に内容が理解できるようになった。会話実践のみならず文法事項もすべてその言語で行われる言語教育は、学習者への負荷が大きい分、非常に効果的な学習であると思う。学舎から一歩外に出ればそこでは韓国語が話されているので、学んだ言葉をすぐに実践できるのは貴重な体験であった。また他国からの留学生との交流が出来たのも有意義であったと思う。
- 自由時間には、学生同士で寄り集まって、または参加者一人一人に割り当てられたバディと呼ばれる延世大の学生を伴って、ソウル市内を観光したり、名物料理を味わうことが出来た。
- ④ 私は都市とそこに暮らす人々の様相に興味がある。ソウルの街はその観点からも関心を寄せていた地であった。
- 色鮮やかなネオンに彩られた街は、とりわけ静かな京都とは対照的に見える。しかし私はむしろ人間同士の関わり合いの違いを見出す。シンチョンの繁華街で見られる集団の人々には、言葉だけでなく体を用いたコミュニケーションが多く見られた。日本ではあまり考えられない身体接触の頻度である。しかし恐らくそうしたやりとりこそ自然なコミュニケーションなのではないか。都市の様相は末梢的な刺激を追及するように見えて、そこでの人々の感性は我々日本人よりも本来的なように思われた。要するに私は彼らのコミュニケーションを好ましく思うとともに、日本でのそのあり方に改めて疑問を感じている。
- 私は都市論に興味がある。そのフィールドは決して日本に限られることはない。

이번 프로그램에서 체험한 것은 한국말 수업이나 한국문화만이 아닙니다. 한국에서는 수많은 만나기가 있었습니다. 한국어학당 수업에서 같은 교실이 된 외국 학생들이나 연세대학교를 다니는 한국 학생들과 함께 다양한 이야기를 했습니다. 세미나에서는 발표를 통해서 일본문화에 흥미가 있는 학생하고 친해졌습니다. 또 서울에서 살고 있는 친구들을 만나서 놀거나 먹거나 했습니다. 이제는 혼자서도 서울을 여행할 줄 알지만 역시 다음에 한국에 갈 것이 있으면 다시 그 사람들과 만나고 싶습니다.